

共創の生まれる場(Ba)づくり TechShop Tokyo

オープンイノベーションを加速するための様々な共創の場が、富士通グループ内にも開設されている。東京都港区にオープンした「TechShop Tokyo」もその1つだ。米国サンフランシスコ・ベイエリア生まれの会員制DIY工房 TechShopは、全米9都市で展開され、米国外ではパリ、アブダビに続いて東京が3番目となる。「TechShop Tokyo」の運営にあたっているテックショップジャパン株式会社の有坂社長に話を聞いた。



テックショップジャパン株式会社
代表取締役社長

有坂 庄一 氏

コミュニティが 自然発生する仕掛け

富士通は、世界のメイカームーブメント^{※1}を牽引する米国 TechShop, Inc. 社と2014年、戦略的パートナーシップを締結。テックショップジャパンは本パートナーシップに基づいて設立された会社であり、日本でのオープンイノベーションによる新たな事業の創出やビジネスの支援・拡大を目指して2016年4月に「TechShop Tokyo」をオープンしました。

約1,200平方メートル、最大天井高8メートルの工房には、米国と同等の工作機械を約50種類そろえ、さらにコミュニティの自然発生を促すための様々な仕掛けを施しています。例えば空間設計では、仕切りのない大部屋方式を採用し、中央のワークスペースからは店内全体が見渡せます。金属加工や木工、溶接の専用部屋はいずれも窓が大きく、顔見知

りがいれはすぐに見つかります。また、店内には「ドリームコンサルタント」が常駐し、機械操作に関するサポートにとどまらず、様々なスキルやアイデアを持つ会員同士をつなげる役も担っています。イベントやワークショップ、交流会も盛んで、特に外部と連携したイベントは積極的に開催。例えば昨夏には中高生向けに3社共催でIoT/AIワークショップを実施しました。これは学術研究の第一線で活躍する講師陣のもと、短期間(3日)ながら電子工作によるハードウェア試作及び人工知能(機械学習)を活用したプログラミングまでを行い、最終的にはIoTデバイスを作るというものです。

日常的に起こる コラボレーション

会員数は2017年1月時点で530人を超えています。法人会員は主に新製品のプロトタイプ作りや人材育成、社内横

断活動の場として TechShop Tokyo を活用しています。個人会員にはベンチャー企業も多く、まさにここが製品開発の場です。もちろんビジネス以外にも、例えば馬術の競技大会用にと、10色もの糸を同時に使える職業用刺繍ミシンで馬に着せる洋服の見事なエンブレムを作る会員もいます。TechShopでは最初に安全&基本操作教育(SBU)を受ければ工作機械が使い放題ですから、皆さん自由にものづくりを楽しんでいます。

オープン後しばらくは、個別に作業する会員が多かったのですが、会員数が500人に近づくあたりから、共創の場になりつつあるという手ごたえを感じています。電子工作に強い会員とプログラミングのできる会員がIoTプロダクトを開発するといったことが日常的になってきました。

米国のTechShopでは、1店舗の会員は1,000人ほどだそうです。TechShop Tokyoも会員数は順調に伸びていますか



上) 木工部屋には、複雑な切削加工が可能なCNCマシニングで格好良い看板も作れる



右) 染料インクをダイレクトプリントするデジタル捺染機は表現力豊か

左) ワークショップの様子。燕市とのコラボで地元の伝統産業・技術をレクチャー



※1 メイカームーブメント：「MAKERS」の著者クリス・アンダーソン氏により定義された、デジタルファイルやCADや3Dプリンターなどを使うデジタル製造のこと

ら、プラットフォームとしてのバリューはますます高まっていくでしょう。これからが面白いところです。例えば米国のFord社は、自社工場の一部をTechShopに入居させて以来、特許出願数が倍増したそうです。TechShop Tokyoにも最近、企業から新製品開発の拠点として使いたいという話が来るようになりました。我々が目指しているのはまさにそこであり、様々なビジネス展開のベースとしてこの TechShop Tokyo を育てていきたいと思っています。

会員同士、企業とベンチャー、あるいは外部の町工場とつないだり。当店の内外を問わず、我々は“つなぐ”ことを常に意識してお客様サービスを考えています。

オープンイノベーションを全力でお手伝い

どういったサービスならお客様にご満足いただけるのか。今のスタイルがベストかどうかも含め、我々は常に模索しています。もしかすると、TechShop Tokyoの最終形は我々が現時点で思い描いている形とは違うかもしれない。それくらい柔軟に考えています。今は会員の皆様にご満足いただけるサービスを提供していくために、とにかく愚直にやっていくことだと思っています。

我々自身も日々感じていることですが、異なる文化、作法、バックグラウンドの人たちとの共創によって得るものは、非常に大きいです。富士通のお客様にもぜひTechShop Tokyoに来ていただき、“他流試合”に飛び込んでいただきたいと思えます。皆様のオープンイノベーションに向けて、我々が全力でお手伝いいたします。

TechShop Tokyo



<http://www.techshop.jp/>

<https://www.facebook.com/techshopjapan/>

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目12番32号アーク森ビル3階
Tel: 03-5797-7110 営業時間: 10時~23時 (不定休)

金属・溶接・木工・電気・樹脂・裁縫・カラーリング工作機械が約50種類そろい、非会員も参加できるワークショップなどを随時開催。会員には工作機械が使い放題(利用プランに基づく)の他、技術サポートや会員同士の人材マッチングサービスもあり。予約不要の無料見学ツアー(30分程度)を定時開催。集合時間は同社Facebookページにて告知。

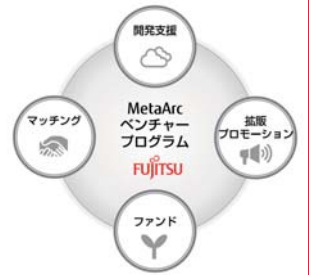
ベンチャー企業との共創による新たな価値創出への取り組み

富士通 MetaArc ベンチャープログラム

<http://www.fujitsu.com/jp/innovation/venture/>

富士通はベンチャー企業との新たなビジネスの創出を目指し、マッチング、デジタルビジネス・プラットフォーム「MetaArc」の無償提供による開発支援、拡販プロモーション、ファンドの4つを支援プログラムとして提供している。過去3回のプログラムでは計25社と協業検討活動を実施。

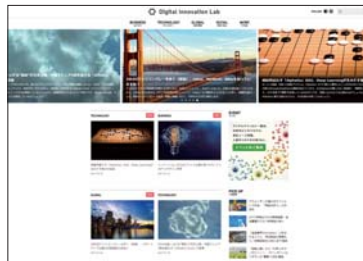
例えば2016年に「CEATEC JAPAN 2016」で実施したFINTECHスタンプラリーにおいては、富士通のLED情報伝達技術「FlowSign Light」と、カレンシーポート株式会社様が開発したブロックチェーン活用技術「Deals4」を組み合わせ、来場者に仮想通貨利用の疑似体験を提供した。次回の募集は2017年春を予定している。



オープンイノベーションを支援し加速させるウェブメディア

Digital Innovation Lab

<http://digital-innovation-lab.jp/>



多くの方と価値観や問題意識を共有し、広く意見を交わし、「共創」によりデジタルイノベーションを起こす — そうした想いから誕生。ICT活用のヒントを発信するウェブサイトと、リアルなトークイベントを通じて、ユーザー同士が「共創」できる場づくりを目指している。イベントでは、登壇者と聞き手の垣根を越え、デジタル技術の活用による新ビジネス創発の「きっかけ」をつくり出している。

あしたのコミュニティーラボ

<http://www.ashita-lab.jp/>



「人にやさしい豊かな社会」を様々なジャンルの有識者やユーザーとともに考え、社会課題の解決に向けた新たな価値の創出に取り組み、そのためのアクションを起こしていくメディア。「人が中心」「共創」「日本再発見」をコンセプトに事例紹介や有識者の視点などの記事を掲載するだけでなくメディアを起点としたワークショップやハッカソンを開催し、アイデアの社会実装にも取り組んでいる。